

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-100
研究課題名 子宮癌肉腫の組織型が予後に与える影響についての国際多施設共同研究
研究期間 西暦 2014 年 6 月（倫理委員会承認後）～ 2014 年 12 月
対象材料 ■病理材料（対象臓器名 子宮、両側付属器、骨盤-傍大動脈リンパ節、大網、腫瘍組織） □生検材料（対象臓器名 ) □血液材料 □遊離細胞 ■その他（診療録）
上記材料の採取期間 西暦 1993 年 1 月～ 2013 年 12 月
意義、目的 子宮癌肉腫の組織成分による予後の違いがあるかどうかあるいは治療法の個別化が必要かどうかをこれまでに治療を行った症例を検討し明らかにする研究です。子宮癌肉腫はまれな症例ですので、国際共同研究として多くの症例を集めて検討します。
方法 臨床データおよび病理組織データを集積し、癌肉腫の組織成分や治療法（手術法）による成績の違いがないかどうかを調べます。  ○調査項目：背景因子（年齢、分娩歴、身長・体重、既往歴など）、治療歴（手術療法、化学療法、放射線療法など）、腫瘍マーカー（CA125）、病理組織学データ（癌腫成分および肉腫成分の組織型とその拡がり）、生存予後  カルテ内に保存されている臨床データおよび当院産婦人科に保管されている組織標本は、個人が特定されないように匿名化を行い、本研究のとりまとめ施設である南カリフォルニア大学ロサンゼルス郡立病院に郵送されます。さらに病理組織学データ（進行期分類、腫瘍径、リンパ・脈管侵襲の有無、子宮筋層浸潤の程度、頸部・付属器浸潤の有無、遠隔転移部位と腹腔内洗浄細胞診断）は中央判定を行います。  研究対象となるのは 1993 年 1 月から 2013 年 12 月に東北大学病院婦人科で子宮癌肉腫で手術を受けた方です。  資料の保存期間は研究終了予定の 5 年後（2019 年 12 月 31 日）までの予定です。  研究組織全体で 200 例、東北大学病院婦人科からは 30 例の予定です。
問い合わせ・苦情等の窓口 ● 高野忠夫（たかのただお） ● 東北大学病院臨床研究推進センター プロトコル作成支援部門 ● 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1 ● TEL 022-717-7122, FAX 022-717-7258 ● E-mail; ttakano@med.tohoku.ac.jp